



株式会社 スペース
代表取締役

鈴木 泰司

奈良県出身。当初はプロのギタリストを目指して18歳で上京する。建設現場でアルバイトを始め、26歳の時に建設会社に入社。32歳で(株)ヒキジャパンの設立に参加し、その4年後には(株)スペースへ改組して代表取締役に就任した。「建設現場の隙間を埋める」という理念を掲げ、ビルメンテナンスを中心に手がけている。

ビルを竣工に導くべく多様な業務で貢献 建設工事のあらゆる隙間を埋めていく

ビルの着工から竣工まで現場に常駐し、工事を円滑に進めるべくあらゆる仕事をこなす。発注元であるゼネコンの意向を受け、施工から清掃まで徹底的にサポートすることが(株)スペースの役割だ。女優の宮地真緒さんが、実直な姿勢の鈴木社長に話をうかがった。

Guest Comment>>

宮地 真緒 (女優)
さまざまな仕事で交錯する建設現場において、「隙間を埋める」というコンセプトでスムーズな工事の進行に貢献される(株)スペースさんは必要不可欠な存在です。対談で私が最も感動したのは、働いたぶんだけスタッフさんにしっかりお給料を払うという鈴木社長の姿勢でした。ぜひ、これからもそのクリーンな姿勢を貫いてさらなる飛躍を遂げてください!

大幅なマイナスからのスタートだった

宮地 ビルメンテナンス事業を中心に、今まさに躍進されている(株)スペースさん。まずは、鈴木社長が独立されるに至ったこれまでの歩みから詳しく教えてください。

鈴木 私は奈良県で生まれ、ギタリストになる夢を抱いて18歳の時に上京しました。しかし、地元で評判だった私のギター腕は東京に来ると決して突出したものではなかったんです。それで、生活のために建設現場でアルバイトをするようになりました。当時、すでにバブルは崩壊していましたが、建設業界の給料はまだまだよかったですよ。私は父と交

わした「26歳までに芽が出なかつたら夢を追うのはやめる」という約束を守り、アルバイトをしていた会社にそのまま就職しました。やがて、さまざまな事情で2004年に(株)ヒキジャパンを設立し、私も転籍したんです。

宮地 なるほど。ということは、必ずしも前向きな起業というわけではなかったようですね。

鈴木 おっしゃる通り、大幅にマイナス要素を抱えた状態からのスタートでした。やがて、どうしても名付けたかった社名の(株)スペースに改組し、代表取締役役に就任したのが2008年のことです。社名の「スペース」には「人と人、仕事と仕事の隙間を埋める」という意味があ

り、建設現場で担当者が明確に決まっていない仕事は、すべて当社に任せてほしいという意気込みを示しています。

宮地 お話をうかがっていると、一般的なビルメンテナンスとは異なるように感じます。

鈴木 ええ。当社のテーマは、無事にビルを竣工させるために何でもやることです。最初は、完成したビルを引き渡す前に清掃する業務が中心でした。それがどんどん広がって、今では基礎を打ち込む段階から当社のスタッフが現場に入り、多様な分野の職人さんの中にある「隙間」を埋める仕事を手がけているんです。

ビルの竣工にプライドを懸ける!

宮地 (株)スペースさんのように1つの現場に着工から竣工まですべて関わるお仕事というのは、メリットも大きいのでしょうかね。

鈴木 はい。方々で多数の現場を抱える必要がなく、少ない現場にスタッフを集められるので、スケジュールの管理がしやすく経営も安定します。

宮地 そのような日々のお仕事の中で、鈴木社長が特に心がけていることは何でしょうか?

鈴木 当社の元請けであるゼネコンの意向をくみ取り、同じ目線で現場を見て、竣工まで導くことです。

宮地 そうした業務を完遂するスタッフさんたちについてもお聞かせください。

鈴木 現在、当社のスタッフはアルバイトを含めると50名にまで増えました。優秀な彼らに伝えているのは、自分たちの仕事ばかりに目を向けるのではなく、常に積極的に「もっとこうしたらどうでしょう」と提案することです。さらに、ゼネコンと私たちの意向は同じなので、曲げる必要がないことは絶対に曲げないという信念も大切にしています。おかげさまで、当社のスタッフは、大手ゼネコンの所長さんから食事に誘われるほどかわいがっていただいているんですよ。

リピート率100%で指名される企業へ

宮地 それは少し意外でした。現場のスタッフさんが、ゼネコンの所長さんと一緒に食事に行くというのは珍しいケースではないですか?

鈴木 そうかもしれません。当社のスタッフは皆コミュニケーション能力が高いんです。もちろん彼らも現場で失敗することはありますが、人間は失敗を繰り返して成長するもの。だから私も、1度の失敗では叱らず2度目で注意するなど人材育成には工夫を凝らしています。とはいえ仕事の一番の目的はやはりお金ですし、私やスタッフが汗水たらして働いているのも稼ぐためです。建設の仕事は

週休2日にすると給料が下がってしまう点がネックなので、当社はあえて週休2日制を採用せず、働きたい社員にはほとんど働いてもらい、そのぶん残業代や時間外手当は満額払うようにしています。

宮地 そうなると、人件費を負担する鈴木社長のご苦勞も増えるのではないかと思います。

鈴木 ゼネコンから満足のいく対価を払っていただけるよう、私が責任を持って交渉するから安心して働いてくれとスタッフに伝えています。実際、当社の給料や協力会社へ払う代金は同業他社と比べ、圧倒的な高さを実現しているんです。

宮地 それは素晴らしいと思います。実に頼もしい鈴木社長ですが、今後の目標についてはいかがでしょうか?

鈴木 当社は、既存のお客様から新たにお仕事をいただく、いわゆるリピート率が100%に近いんです。今後はこれを完全な100%にしていきたいと思っています。1つの現場が終わり私やスタッフがごあいさつにうかがった際、その場でゼネコンから「次の仕事は〜」と話が始まる会社になるのが目標ですね。また、現在の当社はお客様から選んでいただく立場ですが、いずれは「(株)スペースでなければ駄目だ」と、自ずと指名していただける立場になるのが理想です。そのためにも、ますます高いモチベーションで現場に向かっていきます!

Company Data>>

株式会社 スペース

〒350-1142
埼玉県川越市藤間 18-1
ウエルズ 21 高階 3
URL <https://hiki-space.net/>

